

日本学生航空連盟の沿革（2002年4月現在）

昭和5年 4月	日本学生航空連盟設立。操縦部、技術部、研究部で飛行訓練をスタート（1930年）。
昭和6年 5月	訪欧飛行。学生・教官同乗の石川島R3型機「日本青年号」で羽田からローマまで95日間で飛ぶ。
昭和9年11月	「第1回全日本学生航空選手権大会」（羽田）。第8回まで。
昭和10年3月	グライダー訓練開始。11月グライダー部誕生。
昭和12年6～7月	航空ページェントに参加（羽田、仙台、盛岡）。
昭和13年8月	「第1回学生グライダー競技大会」（霧ヶ峰）。
昭和17年4月	「日本学生航空隊」と改称。
昭和19年末	民間航空活動中止のため解散。
昭和27年6月	戦後航空再開により「日本学生航空連盟再発足」。グライダー訓練開始（1952年）。
昭和28年9月	「第1回指導者講習会」（兵庫県青野ヶ原）。
昭和29年7月	機関紙「方向舵」発刊。
昭和30年8月	「第5回全日本学生グライダー競技選手権大会」（霧ヶ峰）。戦後最初の大会。
昭和34年4月	文部省管轄の「財団法人」認可。複座機による訓練教育始まり、「中央研究所開設」（八尾）。
昭和35年7月	「第1回学生グライダー初級講習会」（霧ヶ峰） 第8回まで。
昭和36年1月	世界選手権めざし「第1回滑空記録会」（八尾） 第3回まで。
昭和37年4月	「飛行機操縦班誕生」第5期生まで養成。
11月	韓国の学生航空連盟に中級滑空機2機を寄贈
昭和38年5月	「妻沼滑空場」開設（埼玉県妻沼町）。昭和41年宿舎完成。
昭和39年4月	自主訓練に移行。
昭和40年3月	飛行機操縦班第1期生、3機編隊で卒業記念日本一周飛行。
昭和41年8月	福井空港でグライダー訓練開始。
昭和42年4月	OB指導員を中心に専門技術協議会設置。
昭和43年1月	諏訪市にグライダー7機を寄贈。
4月	滑空機の耐空検査を民間に委譲、学連関係の検査員は10名。
昭和44年7月	琉球大、沖縄国際大の学生が体験合宿（小倉）。
昭和45年6月	妻沼滑空場に第2滑走路開設。
昭和46年4月	「第1回沖縄大学、本土大学合同グライダー訓練大会」（沖縄・本部）
10月	「久住滑空場開設」（大分県久住町）。
昭和47年3月	航空従事者指定養成施設「グライダースポーツ教室」発足、認定者には実地試験免除。昭和53年3月まで。
昭和49年11月	「木曾川滑空場」開設（岐阜県海津町）。
昭和50年4月	ウインチ曳航者認定証明書発行。
8月	三等航空整備士講習会を初めて東海・関西支部で実施。
12月	「写真で見る学連45年の歩み」発行。
昭和52年2月	「グライダースポーツ手帳」発刊。毎年改訂。
昭和53年3月	初の女性三等航空整備士（滑空機）誕生。
昭和54年10月	東海・関西学生グライダー競技会を合同で開催。
昭和55年6月	初の女性教官誕生。
7月	妻沼滑空場で各支部の合同合宿となるトレーニングセンター開設（昭和59年まで）。
10月	連盟年史「日本学生航空連盟の50年」発行。
11月	創立50周年記念式典（東京、名古屋、大阪、北九州）。
昭和56年3月	50周年記念「全国学生グライダー競技大会」（妻沼、木曾川、福井、久住）開催。
12月	日本自転車振興会の補助金で滑空機2機購入。
昭和57年3月	「全日本学生グライダー競技大会」開催（妻沼）
7月	久住滑空場の滑走路を谷埋め整地。

昭和 58 年 3 月	8 月	「霧ヶ峰山岳滑翔会」(長野県霧ヶ峰)として開催。(旧霧ヶ峰新人合宿)。
		「第 23 回全日本学生グライダー競技選手権大会」(妻沼)。10 年ぶり復活、以後毎年開催。
	5 月	「久住山岳滑翔大会」開催(久住)。
	8 月	日本自転車振興会の補助金で滑空機 2 機購入。
昭和 59 年 9 月	9~10 月	運輸省航空局試験官 2 名にグライダー訓練および研修
		久住に福岡大学格納庫完成。
昭和 60 年 7~8 月	12 月	木曾川訓練所新宿舍完成。
		運輸省航空局試験官をグライダー試験官として再養成。
昭和 61 年 11 月	10 月	指導者要員講習会を福井空港で行う。
昭和 62 年 12 月		「第 1 回東海・関西学生新人グライダー競技会」を木曾川滑空場で開催。
昭和 63 年 11 月		日本大学OB加藤、宮沢両氏がモーターグライダー「チロル号」でオーストリア-日本間、2 万キロの旅。
		「第 28 回全日本学生選手権者」古市安利君(早稲田大学)北尾直敬教育訓練部長と、足立猛東海・関西支部参事を初のオーストラリア遠征に派遣。
	12 月	妻沼訓練所新宿舍完成。
平成元年 3 月		運輸省、連盟に航空従事者養成施設に指定。自家用操縦士(滑空機)上級。
	8 月	新曳航機 JA4087「学連 7 号」購入。JA3117 引退。
	11 月	「第 29 回全日本学生選手権準優勝者」内藤勝義君(大阪大学 OB)、石渡利明教官をオーストラリア遠征に派遣(第 2 回)。
	〃	学連国産グライダー製作委員会、西独グライダー工場視察
	11 月	JA3117 曳航機、北九州市立交通科学館に寄贈。
平成 2 年 3 月		「第 30 回全日本学生グライダー競技選手権記念大会」。開会式のアトラクションに曲技飛行、モーターグライダー編隊飛行、航空中央音楽隊演奏、妻沼太鼓演奏などを披露。
	4 月	機関紙「方向舵」連盟創立 60 周年記念号、「OB 名簿」発刊。連盟創立 60 周年記念祝賀会(於 有楽町マリオン)。
	7 月	連盟創立 60 周年記念製作 PR ビデオ “空を翔ける青春「風の詩が聞こえる」”完成。
	9 月	ドイチェ・エアロクラブを日本に招待(役員 2 名、学生 2 名)
	10 月	学連、FAI(国際航空連盟)より表彰される。オナラリー・ディプロマ賞受賞のため、鬼頭鎮三専務理事ハンガリー国ブタペストの FAI 総会に出席、帰路ドイツ、イギリス、フランスを視察。
	11 月	「第 30 回全日本学生選手権者」安福精二君(名城大学 OB)、田口昇教官をオーストラリア遠征に派遣(第 3 回)。
平成 3 年 8~9 月		中村暢宏教官、佐藤芳之君(慶応義塾大学)、有馬淳哉君(九州大学)をドイツへ派遣。イダフリーグのサマーミーティングに参加。
	9 月	福井訓練所に新宿舍完成。
	12 月	「第 31 回全日本学生選手権者」横井信也君(慶応義塾大学 OB)、中村光宏教官をオーストラリアへ派遣(第 4 回)。
平成 4 年 3 月		「第 32 回全日本学生選手権大会」慶応義塾大学が個人・団体とも優勝
	5 月	連盟教官に関口宗太君を採用(明星大学 OB)。
	10 月	ドイツから学生 3 名招待し、連盟の学生と交流を深めた。
	11 月	「第 32 回全日本学生選手権者」石原廣君(慶応大学 OB)、中村暢宏教官をオーストラリアへ派遣(第 5 回)。連盟の学生、教官としては、初めて海外競技会に参加。
平成 5 年 4 月		「FRP 国産グライダー製作事業」中止決定。
	8 月	中村光宏教官、山本圭君(早稲田大学)、新田隆史君(関西学院大学)をドイツへ派遣。
	9 月	北尾直敬教官が国際航空連盟賞「エアースポーツメダル」を受賞。
	11 月	自転車振興会の補助を受け、複座機(ASK 21、JA2520)を購入し、「パロマ」と命名した。
	〃	「第 33 回全日本学生選手権者」鈴木拓也君(慶応義塾大学 OB)と連盟職員戸

- 平成 6 年 1 月 田佐をオーストラリアへ派遣（第 6 回）
- 3 月 熊本県熊本市白川河川敷の滑空場占用が許可される。
「第 34 回全日本学生選手権大会」で松山健史君が立命館大学として第 18 回大会以来の優勝。団体は早稲田大学が 2 連覇。
- 9 月 ドイツの学生訪日。連盟の学生と交流を深める。
- 〃 「第 34 回全日本学生選手権大会」松山健史君（立命館大学 O B）と 連盟職員大村正明をオーストラリアへ派遣（第 7 回）
- 11 月 熊本県白川滑空場の開所式を行い、本格的な訓練に入る。
- 平成 7 年 3 月 妻沼訓練所研修施設兼格納庫の竣工式を行う。一部 4 階建て、1～2 階は格納庫、3 階事務所と研修室、O B 部屋、4 階は気象観測室。自転車振興会の補助を受け建設。
- 〃 「第 35 回全日本学生選手権大会」東北勢として初めて斎藤岳志君（東北学院大学）が優勝。団体は慶応義塾大学が早稲田大学の 3 連覇を阻止し、3 年ぶり優勝。
- 9 月 田口昇教官、魚住朋久君（東京理科大学）中村肇宏君（東北大学）の 3 名が 8 月 20 日～9 月 2 日までドイツのサマー ミーティングに参加した。
- 10 月 「第 35 回全日本学生選手権大会」斎藤岳志君（東北学院大学 O B）と河邑英樹教官をオーストラリアへ派遣（第 8 回）
- 平成 8 年 1 月 東海・関西支部に複座機（A S K 2 1、J A 2 5 5 7）が導入されました。名古屋市内のビル街の真ん中、名古屋本社前で命名式、「パロマ II」と命名した。資金は自転車振興会の補助を受けて購入。
- 3 月 「第 36 回全日本学生選手権大会」で女子として 1959 年第 9 回大会以来 37 年ぶりに飯田馨さん（早稲田大学 O G）が優勝。団体は慶応義塾大学が逆転で 2 連覇。今年初めての試みで、地元妻沼町とタイアップし「風と遊ぼう！めぬまグライダーフェスタ 96」を開催。グライダーの古今の名機 20 機を展示。また、アクロバット飛行には大勢の観客から拍手を浴びた。他に妻沼町の歩こう会や体験搭乗などたくさんの催しで、大会を盛り上げた。
- 4 月 大阪女子大学の正式加盟が承認さ、加盟校 59 大学に。
- 5 月 福井訓練所に研修施設完成。「第 14 回久住山岳滑翔大会」に平松守彦大分県知事、中江利忠 朝日新聞社社長（本連盟会長）、衛藤龍天久住町長ほか多数の出席を得て開会式をし、大会を盛り上げた。
- 8 月 ドイツから 2 名の学生を招き、連盟の学生と交流。また、埼玉県 妻沼町の主催で講演会を開き、地元の方とも親睦を深めた。
- 10 月 「第 36 回全日本学生選手権大会」の飯田馨さん（早稲田大学 O G）と連盟職員渡辺正美をオーストラリアへ派遣。
- 平成 9 年 3 月 「第 37 回全日本学生選手権大会」開会式では、土屋義彦埼玉県 知事をはじめ、運輸省、建設省の方々を招き、グライダーフェスタとトリブウエーの竣工式をした。フェスタでは妻沼町の商工会も加わり盛況だった。またトリブウエーは埼玉県 の全面的支援で完成した。大会は今回から文部大臣賞（団体）に加え、運輸大臣賞（個人）が授与された。個人では中野雅之君（慶応義塾大学）が優勝、団体は慶応義塾大学が 3 連覇。
- 4 月 東京商船大学の正式加盟が承認され、加盟校 60 大学となる。
- 9 月 河邑秀樹教官、妹尾綾子さん（法政大学）経澤佳代子さん（東海大学）の 3 名が 9 月 1 日～13 日までドイツのサマー ミーティングに参加した。
- 10 月 「第 37 回全日本学生選手権大会」の中野雅之君（慶応義塾大学 O B）と準優勝の金子昌樹君（慶応義塾大学 O B）の両名をオーストラリアへ派遣。
- 平成 10 年 3 月 「第 38 回全日本学生選手権大会」は開会式当日、強風により体験 搭乗などのフライトができなかった。個人優勝は吉岡利典君が法政大学として 43 年振り 3 回目の 優勝。団体は慶応義塾大学が 4 連覇した。
- 9 月 ドイツから 2 名の学生を招き、連盟の学生と交流を深めた。
- 10 月 妻沼滑空場で「東京六大学対抗グライダー競技会」を初めて開催した。
- 11 月 中村暢宏教官、「第 38 回全日本学生選手権大会」の吉岡利典君（法政大学 O B）の両名をオーストラリアに派遣。

- 平成 11 年 3 月 日本自転車振興会の補助を受け、妻沼滑空場に 4 連式ウインチシステムを導入。
 // 「第 39 回全日本学生選手権大会」は、多くの観客のなか「グライダーフェスタ」をはじめ、予定通りイベントを実施。競技は個人の部は小宮孝之（早稲田大学）が最終日に逆転優勝をした。早稲田大学の個人優勝は 3 年振り 8 回目。団体の部は慶応義塾大学が 5 年連続 11 回目の優勝。
- 4 月 連盟加盟申請を提出した一橋大学、福岡教育大学、慶応義塾高校は、2 月の中央学生委員会、3 月の評議員会、4 月の理事会で加盟を承認された。また、同理事会で「支部運営委員会」が承認された。
- 5 月 5 月 3 日東海・関西支部、5 月 7 日に関東支部で「支部運営委員会設立総会が行われ、幹事が選出された。西部支部は 7 月に設立。
- 8 月 ドイツへ学生 2 名（有坂徹・慶応大学 3 年、市川元恒・大阪府立大 3 年）を派遣し、ドイツの学生と交流。
- 1 2 月 久住滑空場に専用着陸帯が完成。
- 2000 年（平成 12 年）
- 3 月 「第 40 回全日本学生選手権記念大会」は、例年を上回る 3000 名以上の観客が来場し、グライダーフェスタならびに選手権大会の開会式は大変な盛り上がった。競技は、12 名の女子選手が活躍した。最終日前日までコンスタントに得点を重ねていた合田嘉彦選手（慶応義塾大学）を最終日に若松瑠利選手（早稲田大学）が 31 点差で逆転し、見事第 40 回記念大会の選手権者に輝いた。早稲田大学の個人優勝は昨年に続き 2 連覇、通算 10 回目の優勝。女子選手の優勝は第 9 回、第 36 回大会以来 3 人目。団体は慶応義塾大学 A（ディスクス）チームが早稲田大学の猛追を振り切り、6 年連続の偉業を達成し、通算 12 回目の優勝を果たした。
- 4 月 中日本航空専門学校が正式に連盟加盟した。加盟校は 65 校。
- 5 月 連盟創立 70 周年を迎え、関東支部では 5 月 13 日朝日新聞東京本社において式典ならびに祝賀会を開催。東海支部は 11 月 12 日、関西支部は 11 月 19 日、西部支部では 11 月 14 日。
 学連創立 70 周年記念「第 1 回日本ワールドクラスグライダー（PW-5）競技会」を妻沼滑空場で開催。翌年の 2001 年、第 2 回以降参加希望チームが少なく、開催を見送っている。
- 9 月 久住滑空場に、（社）日本滑空協会の提唱で、山岳滑翔開拓者顕彰碑建立。
 木曾川訓練所・旧宿舎（平屋建て）の建替えを、日本自転車振興会の補助事業として着工。12 月に完成。
- 10 月 岐阜県大野町の揖斐川左岸に建設していた滑空場を、町の滑空場として 10 月 7 日開所式。
 10 月 12 日、11 回目の日独学生交流で 3 名来日。24 日まで日本の学生や社会人と交流。
 10 月 20 日から 11 月 2 日の間、40 回選手権者の若松瑠利（早大 OG）準選手権者の會田嘉彦（慶応 OB）の両君を、豪州ナロマインへ派遣。
- 2001 年 3 月 3 月 3 日～11 日、妻沼滑空場で第 41 回全日本学生グライダー競技選手権大会を開催。選手権者、谷口伸之君（慶応）。団体は慶応 A チーム。
- 5 月 '89.8 月から使用の曳航機 JA 4087 を、（株）日本モーターグライダークラブへ売却。
- 9 月 夏目匠（大阪府大）、南智（九大）両君をドイツ派遣。
- 10 月 谷口伸之（慶応 OB）、中西祐介（慶応）両君をオーストラリアへ派遣。
- 2002 年 3 月 3 月 2 日～10 日、妻沼滑空場で第 42 回全日本学生グライダー競技選手権大会を開催。選手権者、糸賀兼一君（日大）。団体は慶応 A チーム。